

肉類の輸入数量と価格動向について

1. 我が国の肉類の輸入数量をみると、コロナ禍以降、牛肉は減少している一方で、豚肉は短期的に減少した後に持ち直している（図1、図2）。こうした違いが生じた要因を分析するため、まず牛肉の輸入数量の推移をみると、オーストラリア産は、干ばつによる生産減少等を受けて、20年以降減少している。また、アメリカ産は、21年末以降、輸入単価の高騰を受けて減少してきたが、22年末より持ち直しの動きがみられる。次に豚肉をみると、20年後半からコロナ禍を受けた物流の混乱により減少したが、21年半ばを底に、貿易価格の上昇とともに増加傾向にある。シェアが高いEU産が全体の動きを規定している面がある一方、アメリカ産は相対的に輸入単価が上昇したため22年半ばより減少幅が拡大している（図3、図4）。
2. 一般的に、輸入数量は、内需の影響を受けると考えられることから、牛肉・豚肉の国内消費の動向を確認する。「家計調査」における牛肉と豚肉への支出額（前年比）を比較すると、21年末までは連動性が高い形で推移している。しかし、22年に入ると牛肉への支出額は減少率が拡大する一方、豚肉への支出額は減少率を縮小するなど、反対方向の動きとなった。22年中頃以降は、牛肉は減少率の縮小傾向、豚肉は増加率の拡大傾向と、再び同じ方向の動きとなっている（図5）。ここから、21年末から22年中頃にかけて、豚肉が牛肉を代替する需要変化が起きた可能性がある。
3. 具体的な背景について、消費者向けの小売段階の輸入牛肉と豚肉の価格をみると、21年中頃から輸入価格の上昇を受けて輸入牛肉の価格が上昇し、21年末から横ばいとなった後、22年中頃より再び上昇基調となっている。反対に、国産豚肉は22年中頃まで横ばいを維持し、それ以降は輸入牛肉と連動して上昇している（図6）。輸入牛肉に対する豚肉の相対的な販売価格を確認すると、22年初頭にかけて国産豚肉の価格は輸入牛肉の9割程度だったが、22年中頃に8割程度へと価格差を広げた後、安定的に推移している（図7）。これらから、22年前半の輸入牛肉の価格上昇により、相対的に豚肉が安くなったことで、国内需要において輸入牛肉が豚肉に代替され、肉類の輸入数量に影響したと推察される。なお、牛肉と豚肉の価格をともに国産と輸入品に分けて消費者物価をみると、輸入牛肉と国産豚肉、輸入豚肉は近い動きをしている。一方で、国産牛肉はこれらの影響を受けていないことが確認できる（図8）。
4. 最後に、牛肉や豚肉の輸入価格が21年初頭から上昇した背景を考察する。一般的に国・地域問わず食肉価格と飼料価格は相関関係にあると言われており、実際に我が国の牛肉と豚肉の投入コストの構成比をみると、いずれも飼料価格の影響を大きく受ける構造となっている（図9）。主な飼料であるトウモロコシと大豆の国際商品市況や国際連合食糧農業機関（FAO）の食料価格指数（穀物）¹の推移をみると、20年中頃より中国の需要拡大等から上昇し、22年2月にはロシアによるウクライナ侵攻で高騰した（図10）。こうしたことを受けて、牛肉の輸入価格は飼料価格に遅れて上昇したが、他方、豚肉は横ばいで推移している（図11、図12）。これは、輸入牛肉はセーフガード発動前までは定率課税であるため、海外の価格変動が伝わりやすい一方、輸入豚肉は、輸入価格が基準以下の場合に従量税を差額として課税

¹ FAO食料価格指数（穀物）を構成する主な作物は、小麦・トウモロコシ・ソルガム・大麦・米。

するという差額関税制度²を採用していることから、輸入価格の変動が小さいと考えられる。足元では飼料価格の高騰により豚肉の輸入価格も若干上昇したが、飼料価格が22年秋以降下落し続けているため、牛肉、豚肉の輸入価格も落ち着きを取り戻すと考えられる。食料品は、最近の消費者物価上昇率の約7割を占めていることから、肉類をはじめ、輸入価格や価格転嫁状況等を引き続き注視していくことが重要である。

図1 牛肉の輸入数量寄与度分解

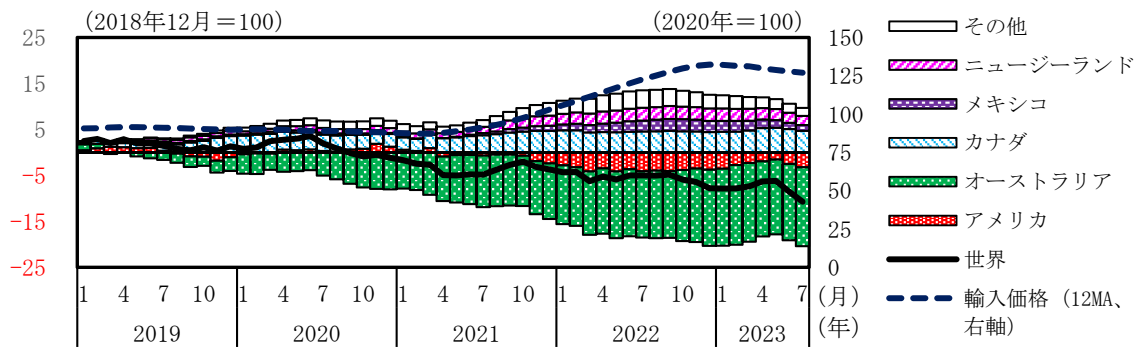


図2 豚肉の輸入数量寄与度分解

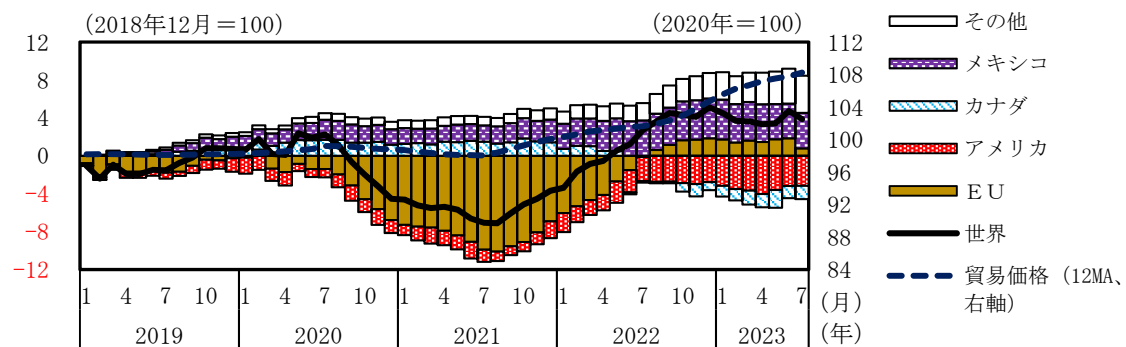
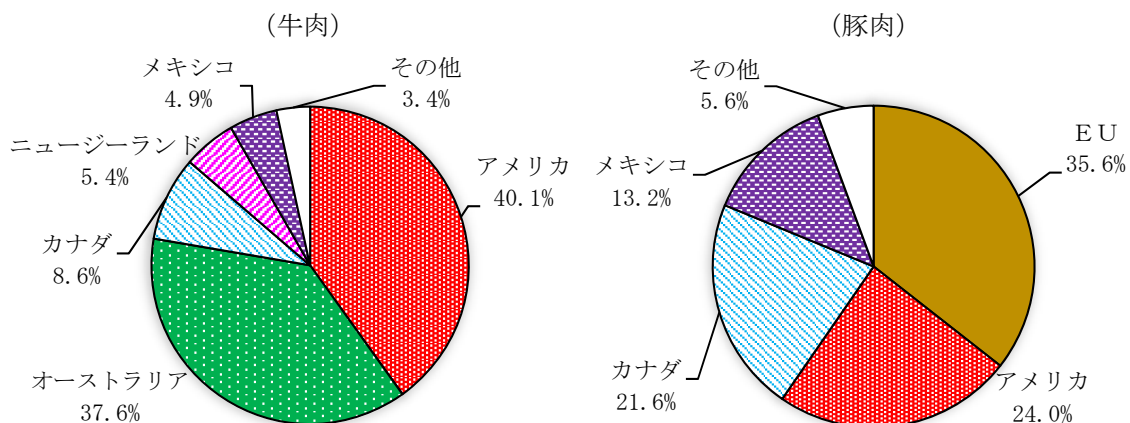


図3 国・地域別輸入数量シェア (22年)



² 23年度以降は、TTP11、日EU-EPA、日米貿易協定、日英-EPAに基づき、対象国家・地域からの輸入については、従量税の基準輸入価格等が変更されるため、輸入価格がこれまでと異なる動きとなる可能性があることには、留意が必要である。

図4 国別輸入単価

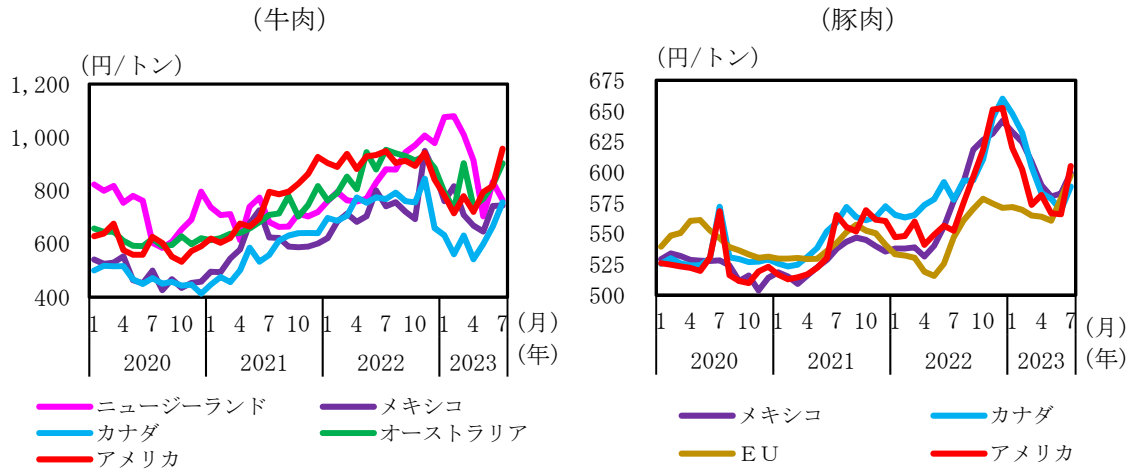


図5 肉類の支出額（前年比）

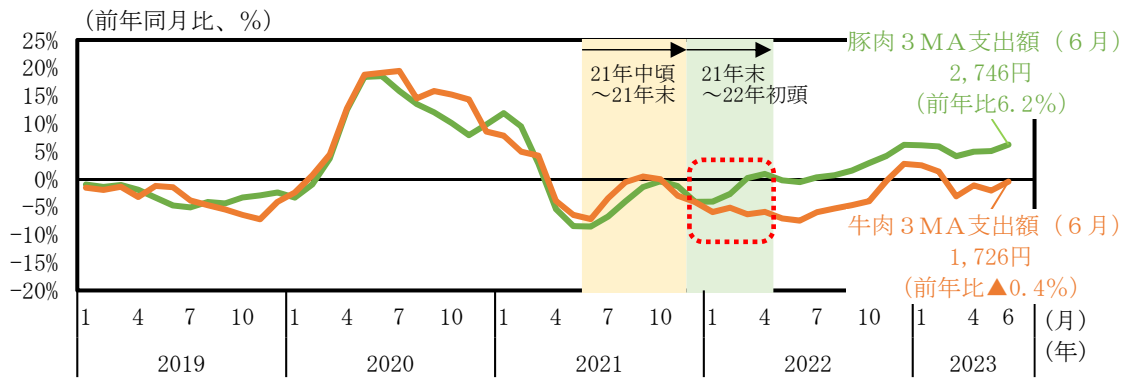


図6 消費者物価指数（輸入牛肉・国産豚肉）と輸入価格（牛肉）の推移

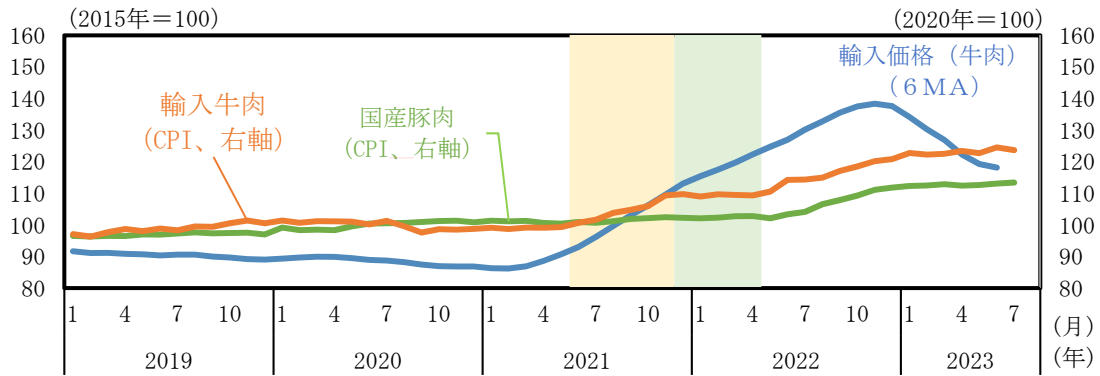


図7 輸入牛肉と比較した国産豚肉の相対価格

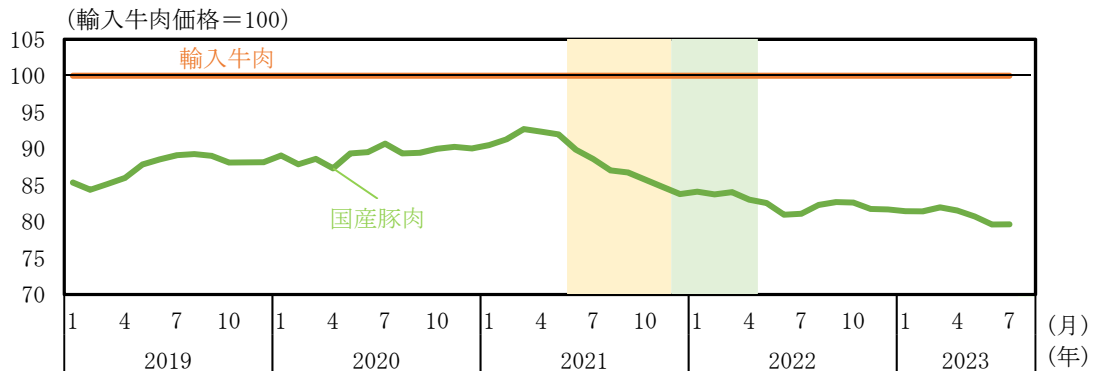


図8 牛肉と豚肉の消費者物価指数の推移

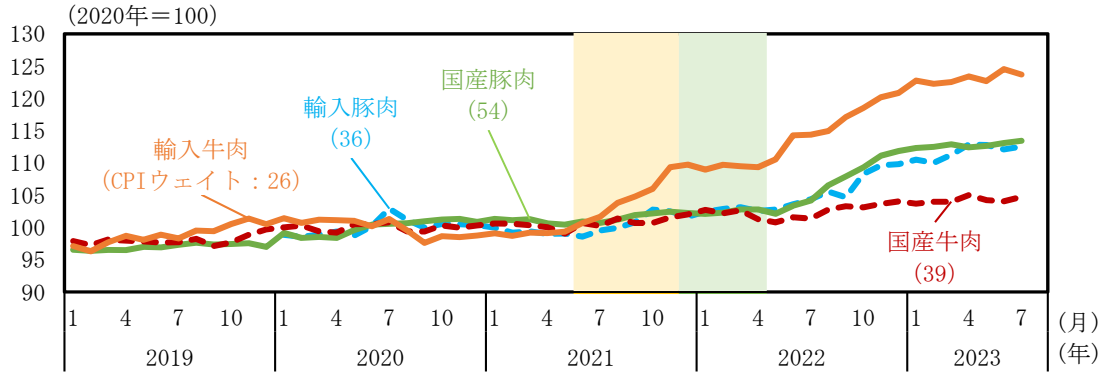


図9 肉類の価格に対する投入コスト（日本の例、15年）

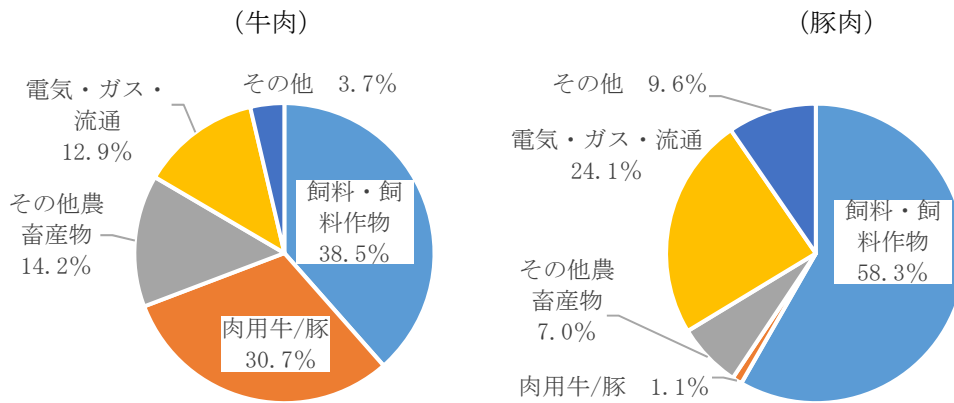


図10 穀物の国際商品市況

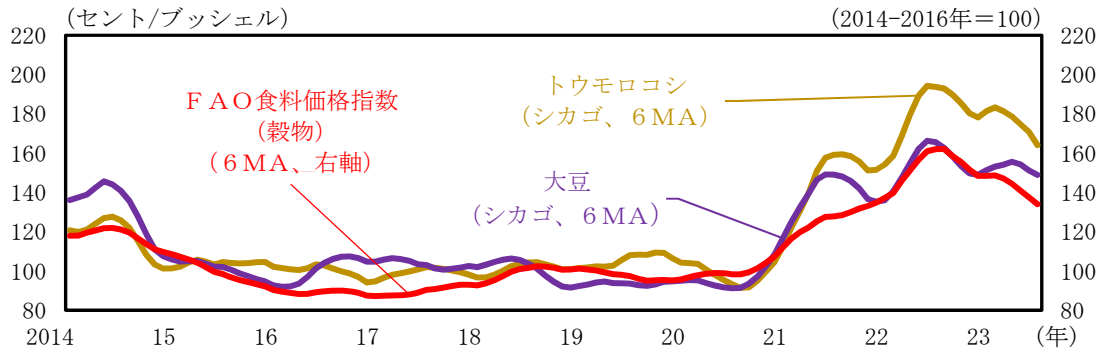


図11 輸入価格（牛肉）と穀物商品市況

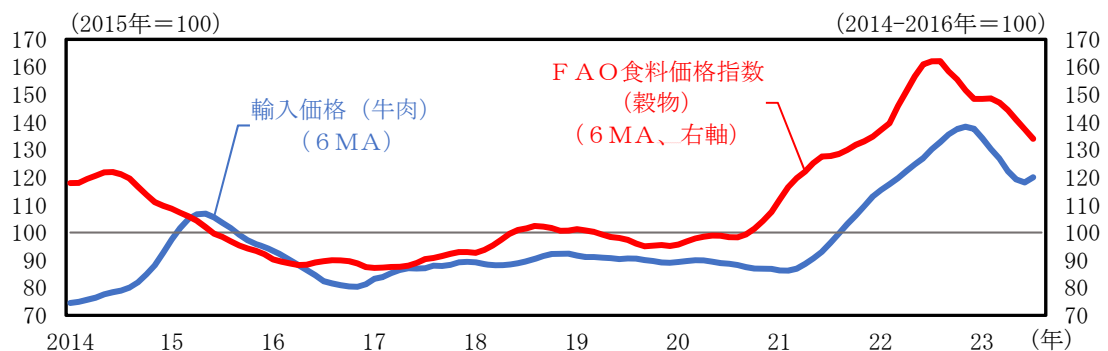
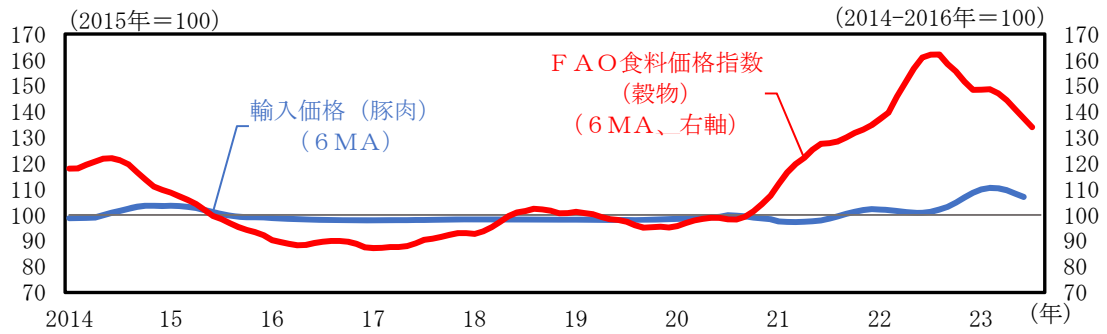


図12 輸入価格（豚肉）と穀物商品市況



- (備考) 1. 図1～4は、財務省「貿易統計」より作成。図5は、総務省「家計調査」より作成。図6～8は、財務省「貿易統計」及び総務省「消費者物価指数（CPI）」、「小売物価統計」より作成。図9～12は、総務省「産業連関表」及び財務省「貿易統計」、Bloombergより作成。
2. 図6及び図8におけるCPIは、2020年・固定基準。
3. 図8におけるCPIウェイトは、2019年及び2020年の平均ウェイトの1万分比（公表値）。
4. 図9は、生産者価格評価表における「国内生産額」を100とした割合。

担当：参事官（経済財政分析－総括担当）付 織本 悟征

直通：03-6257-1569

本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。